



2011～2012 年度  
国際ロータリー会長

カルヤン・パネルジー

# Weekly Report Niigata



心の中をみつめよう  
博愛を広げるために

2011～12 年度 国際ロータリーのテーマ



2011～2012 年度  
新潟ロータリー会長

佐藤 紳一

新潟 RC 10月第2例会 (2011.10.11) No.2916

## (1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

## (2) 佐藤 紳一会長挨拶

10月9日(日)新潟シティマラソンが秋晴れの中開催されました。総出場者数約9200人。陸上競技場を発着に行われ、榎谷小路、万代橋、万代シティ、海岸線を走るコースで、秋を満喫しました。私は6分34秒、高橋幹事は56分と完走しました。ロータリー関係では新潟東の斎藤国雄さんはフルでしたが、今年からいろいろな関係で10キロに変更したそうです。また元新潟クラブメンバー日銀栗原さんは10キロでさっそうと走って行きました。

マラソンの起源は、紀元前490年ペルシア王グリウスは、先にイオニアを助けた二国に向けて陸海合わせて2万5千の兵からなる軍勢を送り、ペルシアの敵はエウベアとアテネの二都市国家であると考えたうえでの侵攻で、エウベアは略奪され住民は売られたという。そして、アテネ攻略に転じたペルシア軍はアッティカ地方の東岸にあるマルトンの平原に上陸し戦いとなる。ペルシア軍はアテネ軍よりも優勢だったが、目的を果たすことはできなかった。このときに11人のアテネの兵士がマラトンの戦勝をアテネまで走って知らせた。このエピソードが近代オリンピックでのマラソン競技の源泉となっているそうです。さて、ギリシャ危機の今日、フランスやドイツに報告に行くのでしょうか。

オリンピックついでにもうひとつ、エルメスです。高級ブランドとして有名ですが、前身は1800年代半ば頃、馬具屋として創業しました。今その技術は皮革製品の加工技術はバッグへ(グレイス・ケーリーのケリーズバック)金具の技術は彫金やアクセサリ類の技術となった。今オリンピックの馬術競技の6割はエルメスの馬具を使っているそうです。

先週の続きでAGの責務を紹介します。

- ① クラブ・リーダーシップ・プランの実施と検討においてクラブを援助する。
- ② 「効果的なロータリークラブとなるための活動計画の指標」の活動を手伝う。

③ 招かれた場合にはクラブ例会とクラブ協議会に出席する。特にガバナー公式訪問のクラブ協議会には出席する。

④ 各クラブを定期的に訪問し(可能であれば毎月、少なくともロータリー年度四半期に1度)クラブ指導者と会合を持ち、クラブの業務やクラブの資金の取り扱いについて話し合う。

⑤ ガバナーの公式訪問の日程と計画を立て、クラブ指導者を支援する。

⑥ ガバナーとクラブのパイプ役を果たす。

⑦ ガバナーの指示に従うようにクラブに奨励する。

⑧ 奉仕プロジェクトとその進展状況の確認、クラブを援助する。

⑨ 将来の地区指導者を見出しその育成を奨励する。

## (3) ロータリーの友紹介(西原譲一会報委員)

## (4) 委員会報告

・小飯田 澄雄職業奉仕委員長

例会終了後、高木J R新潟支社長の御手配で新津のJR東日本車両製作所を訪問致します。ご参加の方は、イタリア軒前よりバスが出来ますのでご乗車下さい。

・加賀田 亮一ゴルフ同好会幹事より(10月4日)

① 9月16日のコンペ結果報告(9/20週報掲載)

② 10月16日例会コンペのお知らせ

③ 10月30日前橋クラブとの合同コンペお知らせ

於 赤城ゴルフ倶楽部

集合 イタリア軒ロビー 朝6時50分

往復バス移動

プレイ 9時45分 OUT・INスタート(各5組)

乗用カート・キャディ付(食事別)13,500円

参加料 3,000円

10月18日の例会予定

卓話「朝市へ行こう！」

敬和学園大学教授 神田 より子氏

ホームページを更新致しました！

新潟ロータリークラブ ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

## コラム

上越総合病院小児科医師

柴田 史郎

「飛び級」是か非か

昔の旧制中学(5年制)においては成績優秀な学生の場合、5年を待たず4年終了で特別に旧制高校への入学が認められたと聞いています。尋常小学校でも5年飛び級がありました。

こどもの身体の発達の過程を見てみましょう。赤ん坊はまず生後3か月までに首(頸)がすわり5-6か月で寝返りが可能になり、7-8か月でお座りをし10か月で伝い歩き1歳前後で独歩ができるようになります。ともすると周りは早く歩くようになってほしいと願い、まだ寝返りも十分出来ないうちから歩行器などに座らせてみたりします。しかし、ヒトの運動発達の過程に人為的に手を加える事は、かえって自然な発達を阻害することになるのです。たとえば、寝返りの期間が十分あることにより腰や全身の筋肉の発達が促され、バランス感覚(つまり神経系統)も養われるのです。この過程を経なければ自立歩行に至る時期はむしろ遅れることが危惧されます。子供の発達を願うのであれば畳の上に寝転がせて、ほったらかしにするのが一番と言えます。

いわゆる「飛び級」についてと、子供の発達の問題は同列で論じられる問題ではないのですが、なんでも早ければ良いという考え方は如何なものかというのが、一小児科医の思いです。日本では現在では制度的には飛び級は存在しませんが、17歳で受験することを容認している大学もあるそうです。今後制度的な復活の動きが出てきそうです。